
【世界にひとつだけの...】

鵜野森鴉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【世界にひとつだけの…】

【Nコード】

N6844G

【作者名】

鵜野森鴉

【あらすじ】

自分で稼いだ金で買った愛車。この車で色々なことを学んだ。この車はドライバーを育てるって、マジかも。

この物語はフィクションです。

登場する人物・施設等は全て架空のもので、実存するものとは何ら関係ありません。

実際の運転は、マナーを守り安全運転を心掛けましょう。

【世界にひとつだけの…】

その車は、とてもじゃないが我慢出来ないほどカッコ悪かった。

それはもう、カッコ悪さがテンコ盛りだった。

タイヤなんて今の軽と同じか、それ以下だ。

ノーマルのハチロクは、どこから見ても不細工だった。

まあハチロクを、どノーマルで乗ってるヤツなんて居なかったし、あの頃乗っていた相棒も、例に漏れず、当時の流行りを採り入れてた。

まずはホイールとタイヤだ。

純正のベーゴマみたいなホイールから、一世を風靡したRSワタナベの

8本スポークに、タイヤはアドバンで決まり。

次はライト。

電球色のぼやけたバルブを、強烈な光を照射する高効率バルブに交換。

その次は内装だ。

トラックのようにデカイハンドルを、33パイの小径ステアリングに。

純正の重たいシートは、安物だったけど軽量のバケットシートに換えて、

リアシートは取っ払って、4点式のシートベルトを装着した。

仕上げはロールゲージ。

自分で組み入れるのは大変だったけど、仲間に手伝ってもらって何とか形になった。

実際の車体剛性なんて関係ない、カッコ良ければ、それでイイのだ。今みたいに車高調なんて無かった時代だから、車高を下げるために、足回りをバラして、サスを金鋸で切断するなんて反則技も平気でやっていた。

短くなったサスはバネレートが上がって、ピョコピョコ跳ねるんだよね。

さすがに純正ショックじゃ頼りないので、社外品に交換したよ。

そしてノンスリ、ノンスリなんて言葉も今じゃ使わないか。

LSDのこと、コイツが無いとドリフトなんて出来やしないし、

純正の2ピニは、すぐにへたるから社外品の4ピニを組み込んだ。

細かい所だと、エアクリやオイル交換、プラグの焼け具合の点検なんて

茶飯事だったし、マフラー交換、アンダーコート剥がしも自分でやった。

貧乏だったから、エンジン本体はノーマルだったけどね。

ここまでやると、一応は走り屋っぽく見える。

そこで、さあ走るぞって、峠に繰り出すんだけど、下手糞だったねえ。

下手糞過ぎて、すぐに走るのヤメて、常連さん達の走りを見てた。

何であんなふうに乗が動くんだろう、どうしてあのスピードで曲がれる

んだらうって、そりゃ眼が点だったね。

見たり聞いたりして、理屈が解ってくると、人間て不思議な生き物で、

試したくなるんだけど、絶対に上手く行かないのも解ってるから、そこでやっっちゃうと常連さん達に迷惑掛けちゃう。

だから、練習出来る場所を探したよ。

県内はもちろん、近隣の他県にまで探しに行ったよ。で、見つけた。

誰も居ない自分だけのスペシャルステージを。

あとはもう毎週通った。

ドリフト出来ないのが悔しくて、狂ったように練習したね。

そんなふうだから、タイヤはみるみる坊主になっていくけど、新品を買う金なんて無い。

知り合いのツテを頼って、タイヤ屋の裏に捨ててある古タイヤから、まだ使えそうなヤツを探し出しておいて、閉店後にチェンジャーまで拝借して、

自分で組み付けて走ってた。

もちろん、バランス取りも自分でやったさ。

だけど、鉛のバランスをガムテープで貼り付けるだけだから、いつの間にか何処かにスツ飛んで消えてるんだ、笑っちゃうね。

今思えば、このハチロクに巡り合ったことで、車の仕組みっていうか構造とか、

イジリ方やメンテナンス、果ては走らせ方まで学んだ気がする。

ハチロクが主人公の漫画で「この車はドライバーを育てる」なんてのがあったけど、

まさにその通りだと思うよ、色んな意味でね。

余談だけど、この漫画が始まって大人気になったお陰で、俺のハチロクは

買った時と同じ値段で売れたんだ、ホントに最後までいい車だったよ。

もう新車では手に入らないけど、復刻版が出たら迷わず買うなきつと。

今どきの車はどうなんだろう。

色々なハイテク装置が満載で、人間が触れる部分が減ってる気がする。

ヒール&トゥなんて、車が勝手にやってくれるんだって、驚いちゃうよ。

ボンネットを開けても、プラグ交換すらさせない構造になってるし。確かに安全に、その上便利になってるけど、車は機械である以上、人間が操作しなければ動かないし、操作するから面白いんだけどね。操作する人間が、車という機械を理解し、興味を持たなければ、いずれ車は、移動する只の箱になってしまっんじゃないかな。

そう、エレベータのように箱に入って、行きたい場所をインプットする。

あとは到着するまで待つだけなんてね。

もうそんなの車じゃないよね。

そんな未来が来ないことを、願わずにはいられないよ。

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6844g/>

【世界にひとつだけの...】

2011年1月27日12時27分発行